

標高5000mの雪山に生息する

幻のヒョウ ユキヒョウ

ユキヒョウは、ネコ科の動物の中で、最も寒い場所に生息する動物の一種です!!

毛におおわれた小さな耳

体温は耳からうばわれやすいので、耳は小さく進化しました。また、体温がうばわれにくいよう、耳はしっかりと毛でおおわれています。

あたたかい体毛

野生のユキヒョウは、冬では-30度があたりまえのとても寒い雪山でくらしています。長さ10cmにもなるフワフワの厚い毛が全身にびっしりと生え、寒さが身を守ります。

美しい毛色

白と黒のコントラストは雪のつもる岩場で身をかくすのに役立ちます。

大きなあし

あしが大きいおかげで、雪にしずみにくく、冷たくとてもすべりやすい雪の上でも安全に重かきまわることが出来ます。また、あしのうらの肉球のところまで長い毛でおおわれています。

太くて長いしっぽ

岩場の急な斜面を移動する時に、体のバランスをとるのに役立ちます。寒い日は首にまいて、マフラーにします。



大森山動物園でのユキヒョウの歴史



1991年12月19日
11子♂来園



1991年12月10日
ライサ♀来園

1991年
ユキヒョウ飼育開始



1997年4月26日
ユキヒョウの双子誕生



2007年
ライサ & 11子
通常開園のポスターに

2007年11月19日
11子死亡

2010年5月24日
ライサ死亡

2018年3月31日
リヒト来園

2021年3月19日
アサヒ来園

2022年4月30日
ヒカリ誕生

11子 & ライサ's エピソード

現在では研究等が進みユキヒョウの飼育下繁殖の成功率を高めるためには繁殖期のみ同居が望ましいと推奨されています。ですが当時は通年同居が主流でした。11子とライサは大の仲よし！2頭とも日だまりが好まざり日光があたらなくなると獣舎をウロウロし、日当たりのいい場所をみつけてはゴロン。と寝転がることをくり返していたそう。

1997年4月26日

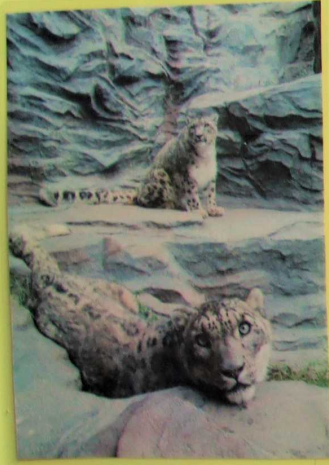
11子 & ライサに待望の赤ちゃん誕生！！

左：ベガ♀ 1999年8月6日東北サマリアパークへ

右：マーズ♂ 1999年6月21日円山動物園へ

すばらしい1枚！！

飼育担当者が動物たちを撮った写真展で来園者投票を行った際最も票を集めた写真のうちの1枚になり、この写真は動物園の通常開園のポスターになりました。
(左前：11子♂ 奥：ライサ♀)



アサヒ来園！！

リヒトがお年頃を迎える頃から長くリヒトのお嫁さんを探していた所、2021年3月に夕摩動物公園より、アサヒが姉さん女房として、はるばる秋田までやってきました。



リヒト来園！！

2010年にライサが亡くなって以来大森山動物園には一時期ユキヒョウがいなくなりました。2018年ユキヒョウ展示の復活に白羽の矢が立ったのは当時1才だったリヒトです☆



アサヒの出産子育てエピソード

大森山にお嫁にやってきた時にはもうすぐ10才を迎える年。当時の国内での最高齢初産の記録は8才11ヶ月。来た時すでにこの年齢を超えていました。まずリヒトとの相性はいいのか、相性が良かったとしてこの年齢から妊娠・出産は無事にできるのか、いろいろな心配事が考えられました。そんな心配は取り越し苦労におわり、リヒトとの相性も良くすぐにご懐妊したアサヒは2022年4月30日に一人娘のヒカリを産出し、国内最高齢初産の記録も塗り替えました。とてもやさしく、めんどう見の良い母としてヒカリを育てました。



←産箱から顔を出るようになった頃のヒカリ



ヒカリ's エピソード

小さい頃から自立心の高い子供だったヒカリは一般的なユキヒョウの子はお母さんのあとをついて歩いたり呼んだりするのに展示場に出た初日からママからはなれママが呼んでもなかなか戻ってきませんでした。さらに大きくなったヒカリはアクティヴな動きでお客様を楽しませています。



飼育員しか知らない苦勞話 ユキヒョウ系編

暑さ対策

ユキヒョウは中央アジアの高山地帯の気温がマイナス20度～30度にもなる極寒の雪山で生活しています。なので、寒さはへっちゃらですが、暑いのがとても苦手です。ユキヒョウが暑さで体調をくずしてしまわない様に、いくつか夏バテ対策を行いました。

～肉汁氷～

～工場用大型扇風機～



天空のうんこスポット



ひと飛びで15mの距離をジャンプすることができるユキヒョウは、展示場の岩場を軽々とジャンプして移動します。長くて太いしっぽは、ジャンプする時にからだのバランスをとるのに使います。

ネコ科重カ物は、自分のなわばりの中でトイレを何か所か決めて、その場所で排泄をします。ユキヒョウにもいくつかトイレスポットがあり、このうちのひとつがスゴイ場所にあるため、飼育員はそうじがなかなか大変です。人間がかんたんには登ることができない天井ちかくの岩場にトイレスポットを作ったんです。

飼育員しか知らない...
リヒトの糸色壁トイレ。



激写! 中のリヒト



どこか遠くを見つめている。

飼育員の苦勞話 アム-ルトラ



トラまっしぐら!

秋田-、巨大なキャットタワー!

展示場の巨大キャットタワーは、高い場所を好むトラが休むためだけでなく、爪とぎ場所として設置しています。

トラが毎日爪をといでいるため損傷がはげしく、体重が200kg近いトラを支えるタワーの維持、メンテナンスは重労働です。

朝、トラを展示場に出す前のチェックでは異常がなかったのに、昼に展示場をのぞくとタワーの板がはがされていたり、プールに板が沈められていたり。トラを室内に入れてからリフォーム大作戦が始まります。トラが安全に楽しくタワーを利用できるように、今日も飼育員はノコギリとクギを片手にがんばっています。

大森山のオオカミたち

オオカミは世界中に広く生息
 していて、たくさん亜種に分かれ
 ます。大森山動物園ではこれまで
 に3つの亜種のオオカミを飼育
 してきました。
 歴代全頭を紹介します!!



ムーン♂
 2022.4.16 ドイツより来園



ルーシー♀
 2022.4.16 ドイツより来園

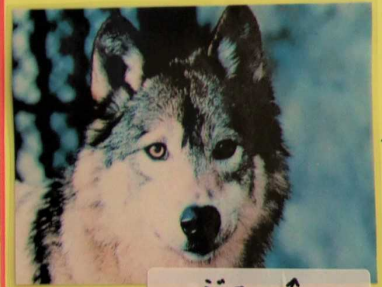


ニッキー♀
 2022.4.16 ドイツより来園

学名 *Canis lupus arctos*
 英名 Arctic wolf
 和名 ホッキョクオオカミ

学名 *Canis lupus lycaon*
 英名 Eastern timber wolf
 和名 シンリンオオカミ

学名 *Canis lupus occidentalis*
 英名 Northwestern wolf
 / Alaskan timber wolf
 和名 アラスカオオカミ
 (シンリンオオカミ)



ジョー♂
 1987.7.24 帯広動物園より来園
 1996.8.6 死亡



♀
 1987.7.24 帯広動物園より来園
 1993.1.1 死亡

- ♀
 1988.4.28 生まれ
 1988.10.25 転出
- ♀
 1998.4.28 生まれ
 1998.10.25 転出
- ♂
 1990.4.23 生まれ
 1992.10.29 羽村市動物園へ転出
- ♀
 1990.4.23 生まれ
 1994.5.4 死亡



ミッドナイト♂
 1996.10.24 カナダより来園
 2012.4.6 死亡



サラ♀
 1996.2.16 アメリカより来園
 2007.6.14 死亡



いち子♀(ワリス♀)
 2005.2.28 カナダより来園
 2008.3.2 旭山動物園へ転出



キララ♀
 2005.4.25 富山県ファミリーパークより来園
 2012.6.7 群馬ファミリーパークへ転出



シン♂
 2005.4.25 富山県ファミリーパークより来園
 2022.8.7 死亡



ジューディー♀
 2012.6.7 カナダより来園
 管理員田原氏に引渡、動物園へ入



これが見られたら
ラッキー!!

『オオカミの遠吠え』



オオカミといえは、遠吠えのイメージがある方も多いのではないのでしょうか？

大森山動物園のオオカミたちも遠吠えをすることがあります。園内放送に反応して鳴くこともあるようです。

実際のオオカミの遠吠えは「うおおーん」というよくイメージされるロングトーンだけではなく、「うおううおうおう」とこぶしが入ったり、「きゅー」というような高い音が入ったり、徐々に音の高さが上がっていくなど様々な鳴き声が混ざりあっています。一般的に、オスの声は低く、メスの声は高いことが多く、さらに個体によって声の高さや鳴き方に特徴があります。

オオカミの群にとってコミュニケーションは大切です。森の中を約10km先まで届く遠吠えは、

長距離のコミュニケーションに用いられ、その目的により遠吠えは異なるといわれています。



他の群に対して縄張りを主張し、不必要ないざこざを避ける

群の関係性を維持する
仲間同士の絆を深める

いろいろな

遠吠え



離れた仲間を呼ぶ
危険を知らせる

仲間同士で狩りを始める合図
・獲物の位置を伝える